

『主体的・対話的で深い学び』を実現するための実践研究事業」授業研究会レポート No.2-①

南国市立香長中学校 授業研究会

令和元年 10月4日(金) 国語科 第2学年

「モアイは語る—地球の未来—」磯邊 浩志 教諭



新学習指導要領の主旨の実現に向け、今、資質・能力ベースの授業づくりに、積極的にチャレンジすることが求められています。本授業研究会では、教科指導に期待されていることは何かを参加者と考えていくとともに、一人一人の教師が自分自身の近未来を描き、自分の目標に向かって学び続ける場となることを目指しています。

本時の目標

友だちと交流することで、文章の構成や論理の展開、表現の効果について自分なりの考えを広げたり、深めたりすることができる。

授業の視点

文章の構成や論理の展開、表現の効果について、生徒の考えを広げたり、深めたりすることができたか。

最終板書

構成
「らしい」、具体例
言葉がやさしい、少ない
昔にも使われて
匂香に透り通る
読みやすい

題名
「問い」
主眼
直接的
「問い」
「答え」
「問い」
「答え」
「問い」
「答え」

筆者の主張 (小学校)
祖先を敬う文化は、さまざまな民族に共通であるが、数世代後の子孫の幸せを願う文化は、それほど一般的ではないかもしれない。今の後の人類の存続は、むしろ子孫に深く思いをめぐらす文化を早急に変えるかどうかにかかっているのではないだろうか。

筆者の主張 (中学校)
題名 ↓ 主張
直接的
「問い」
「答え」
「問い」
「答え」

見比べる味わう
絶海の孤島のイースター島では、森林資源が枯渇し、島の住民が飢饉に直面したとき、どこからか食料を運んでくるのができなかった。地球も同じである。広大な宇宙も同じである。地球、その森を破壊したくじけるとき、その先に待っているのはイースター島と同じ飢饉地獄であるとするならば、私たちは今あるこの有限の資源をどう利用するかを真剣に考えなければならない。それが、人類の生き延びる道なのではないか。

めあて
イースター島にはなぜ森林がはびこるのか
モアイは語る—地球の未来
神無月四日
友だちとの交流を通して
それぞれの記事の筆者の工夫を捉え直し、自分の考えを吟味しよう

ここがポイント!

本単元では「読むこと」の指導を通して、文章に表されている内容や文章の形式について精査・解釈する力の育成を目指しました。特に、筆者が主張したいことを読み手に伝えるために、文章の表現や構成をどのように工夫しているかということをつかえること、言葉や文章に基づいて解釈しながら文章の特徴を見付け、文章の述べ方を吟味することを指導しました。文章の内容や形式を詳しく調べたり、意味付けたりする場合、観点を設けて他の文章と比較することで特徴が捉えやすくなります。「観点を明確にして二つの文章を読み比べる」という言語活動を行うことによって、同じ題材を扱った文章であっても、筆者の主張や、主張を支える根拠が違うことに気づき、何がどのように違うのか、なぜ違うのかを分析する学びが推進されます。重要なのは教師が観点を示すのではなく、生徒自身が観点を見付けることです。例えば、「題名」「構成」「文末表現」「キーワード」「語句の使い方」などの観点で読み比べることによって、文章の構成や論理の展開の仕方、表現の効果などが明確になり、自分の考えを広げたり深めたりすることができるのです。

『主体的・対話的で深い学び』を実現するための実践研究事業 授業研究会レポート No.2-②

南国市立香長中学校 授業研究会

令和元年 10月4日(金) 社会科 第3学年

「人間を尊重する日本国憲法」 西岡 弘華 教諭



本時の目標

新しい人権が生まれてきた背景と意義について、立場による考え方の違いや高まる個人の責任などにも着目し、人権の問題について考える。

授業の視点

課題を自分事として捉え、複数の立場や意見を踏まえて根拠に基づき公正に判断することができたか。

最終板書

基本的人権は、現在・未来において本当に保障されているのだろうか。

10/4 ⑦みんなで育てる人権意識 3/5

めあて これからの社会生活を安全で安心して暮らすためには、何が必要だろうか。また、あなただったらどのようにしていくか。

【課題】 『校門前で信号待ちをしている中学生に車（レベル5の完全自動運転）が衝突して、中学生はケガをしてしまいました。誰の責任でしょうか。』

条件
雨・タイヤスリップ
居眠り・飲酒
購入して1年
最近GPSの感度が弱い

運転手 買った人
造った人 売った人

運転手 資料2
第3条の自動車損害賠償保障法(以下、道交法)では、運行によって他人の生命身体を害したときは、この法による責任を加重する旨の規定があるから、運転手は責任がある。

造った人 資料1, 2, 3
理由
資料2, 3が、自動車に「GPSが壊れて」という欠陥があったため、責任は造った人(製造業者)にあると考えられる。

複数人 運転手、造った人、買った人
資料1, 2, 3
ドライバーには交通ルールを守る(安全運転義務)が課せられることには合意がない。
運行使用者にも、損害賠償する責任がある。
欠陥があったことで人災又は財産に關わる被害が本来的製造業者にも責任がある。

まとめ これからの急速に変化していく現代社会において、人々が安全で安心して暮らすためには、新たなルールや法の整備が必要である。また、これまで学習してきた基本的人権を尊重し、守っていくことで保障されていく。

振り返り

① 自動運転中に安全運転義務が課せられていないから。
② 自己の不注意で事故を犯した場合は、責任を加重する旨の規定があるから。
③ 運転手に責任があると主張するから。
④ 運転手(者) 2・5
2. 自動車損害賠償保障法の「他の運転手に責任を加重する旨の規定があるから、運転手は責任がある。」
5. 自賠責保険の適用範囲が広いから。
⑤ 造った人 資料3
欠陥を証明できれば、責任を追及でき、車のGPSの感度が弱いから、責任は造った人にあるから。
⑥ 買った人 資料3
欠陥を証明できれば、責任を追及でき、車のGPSの感度が弱いから、責任は造った人にあるから。

10月4日

ここがポイント!

社会科の教科目標である公民としての資質・能力の育成に向け、単元全体を通じて、「憲法をはじめとする法が人権を規定し、守るものであることを理解し、自らが法を守ることで人権を尊重しようとする態度を養うこと」をねらいとしています。そのためには、人権に関する課題を自分事として捉えることが不可欠です。単元を貫く問いや毎時間の問いが、自分事として捉えることのできる問いになっているか、ということがポイントです。

また、単元の2次では人権を支えるルールを学習しています。ここでは自由権や社会権といった基本的人権の内容を一つずつ確認していくのではなく、そういった人権を「対立や合意、個人の尊重と法の支配に着目して捉え、その権利の保障と現代社会の課題を関連付ける」という、本単元における現代社会の見方・考え方を基軸に据えて、その視点から基本的人権を見つめるという構成になっています。このことが、その見方・考え方で生徒が学びをつくっていくという、生徒主体の授業にしていくポイントとなっています。

『主体的・対話的で深い学び』を実現するための実践研究事業 授業研究会レポート No.2-③

協議の視点

*単元についての視点

【国語科】単元で付けたい力にせまる単元構成になっていたかどうか。
～単元を貫く問いを考える～

【社会科】単元を貫く問いにつながる単元構成になっていたかどうか。



「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクトを
check!



【中部教育事務所】【小中学校課】

授業リフレクション

授業リフレクションでは、「意見を発表するだけになっている。ねらいとする吟味することによって、自分の考えの根拠を明らかにしながら内容に着目して交流する必要があったのではないか。」「『誰に責任があるのか』ということの議論が中心になってしまったが、これからの社会変化において人々が安全で安心して暮らすためには、ということをしつくりと自分事として考えさせる必要があったのではないか」などの意見が出されました。



を明確にする必要があります。例えば、「自分の考えが多くの人に伝わるかはっきりさせよう」というような交流の目的を具体化し、解決すべき内容が明確になります。自分と他者との捉え方の違いやその理由に目を向けたり、自分の表現の不十分さに気付いたりすることで、「考えを広げたり深めたりする」という資質・能力の育成に向かうことができます。

社会科

社会科の授業では、社会的事象について問いをもたせ、解決していくその先に「あなただったらどうするか」ということを考えさせることが重要です。例えば、「あなたが自動運転車を造る側/運転する側の立場だったら、現行の法律についてどんな考えをもつか」という学習課題を設定することで、法律の解釈を基盤に「あなただったら」という視点や「将来を予測する」という視点を加えます。そうすると、様々な立場から議論を深めることが考えられます。「対立」や「合意」など、現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みを実感させる場をつくるには、めあてと学習課題に整合性をもたせ、問うべき問いを吟味することが必要です。そのためには、あくまでも自分事から外れないように、問いを見極める教師の知恵が求められています。

単元づくりの在り方を問い直す

新学習指導要領において三つの柱で整理された育成を目指す資質・能力をゴールに据えた授業づくりを考えていくうえで、子供を主体にした学びを描いていくことが求められています。



国語科

考えを交流する学習活動では、生徒に切実感をもたせ、多様な考えを引き出すような必然性のある学習課題を設定することが重要です。交流によって自分の考えを客観的に捉え直し、質的に高めるには交流の目的

提案授業から見えてきたこと

生徒をやる気にさせるためには、生徒が本気になって取り組む言語活動を設定しなければならないと思いました。今日の授業は、「問い」はあったが、単元ゴールの設定が明確でなかったです。だから、単元が弱くなったと納得しました。



磯邊 浩志 教諭

自分事として捉えられるめあて、展開になっているか、新たな視点を持つことができました。調べただけで終わるような内容ではなく、生徒が必死になって、もっともっとこだわりたいような「問い」や課題を考えていきたいです。



西岡 弘華 教諭

参加者の声

- 生徒が単元を学び終えた時に満足感を味わうことができる計画をつくっていきたいと思います。また、学びの主体を生徒にゆだねる単元構想をし、教材研究を進めていきたいです。
- 1時間毎ではなく、1つの単元として授業を考え、その中で生徒が自分事として考えることができるような課題設定を行う必要性を学びました。
- 交流については、何のための交流なのかをしっかりと把握し、より効果的な交流の方法を取り入れなくてはいけないという点について改めて確認できました。
- 言語活動を学びの推進力とした単元づくりが大切だということ、生徒に必要感があるときや質的向上のきっかけになるときに交流を設定しなければならないことを学びました。

check! 子供の期待に応える学びをともに作りませんか

次回 令和元年1月31日(金) 春季セミナー 午後から 数学科・英語科